

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 林木育種事業地管理運営事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111 (内4386)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 25,660 千円 (前年度予算額： 25,192 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	25,192	0	0	0	1,190	0	0	0	24,002
要求額	25,660	0	0	0	1,190	0	0	0	24,470
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内3箇所の林木育種事業地において、植栽に必要な種子及び苗木の生産・供給を行っている。令和6年度は3箇所で75kgの種子を生産し、貯蔵種子と合わせて59kgの種子を配布した。

優良な種子及び苗木の生産を行うためには、年間を通じて林木育種事業地及び採種園を良好な状態に維持する必要がある。

(2) 事業内容

県が所有する採種園の木から、優良な造林用種子を供給することによって県下の造林成績の向上に繋がることが期待されるが、そのためには事業地を良好な状態に保つ必要がある。

林木育種事業地、採種園等の手入れ(苗木の植替え、下刈り、施肥、枝の切り揃え、病虫害防除等)や着果促進(花の芽をたくさん着けるためのジベレリン処理)等、安定的に優良な種子及び苗木を生産するための作業

- ・3か所での採種予定量 約37kg
- ・研究機関との連携によるコンテナ苗の試験育苗
- ・花苗等の育成

※植樹活動を通じた緑化意識の向上のため、公共施設等の緑化や記念植樹等に活用する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・補助率：事業費の10/10(一般財源)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	406	業務にかかる旅費
需用費	1,043	苗木、殺虫剤等の消耗品費、施設修繕料
役務費	170	電話代、インターネット等の通信運搬費
委託料	24,026	植栽、下刈り、施肥、薬剤散布、結実促進等の作業
使用料	15	NHK受信料、研修会開催会議室使用料
負担金	0	講習会手数料
合計	25,660	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、(1)森林づくりの推進で苗木生産量の目標数値を設定している。

(2) 国・他県の状況

採種園を有する多くの県においても、直営や外部委託により採種園を維持管理している。

(3) 後年度の財政負担

継続的に必要

(4) 事業主体及びその妥当性

- 1) 事業主体：県
- 2) 妥当性：林業種苗法第3条に、県は優良な種穂の供給を図ることとある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 - ・造林用種子及び苗木を安定生産できるよう、年間を通して良好な状態に管理する。
 - ・ふるさとの緑を守り、育てるために、県民の緑化意識の向上を図る。
- （岐阜県長期構想 IV 美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり）

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (S45・H7)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①種子生産量 (kg)	0 (S45)	69	37	37	37	186%
②花木苗等配布 本数（本）	0 (H7)	318	500	500	500	64%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は53kgの種子を生産し、48kgを配付した。 ・これら生産にかかる採種園の手入れや着花促進を実施し、また、コンテナ苗の試験育苗を実施した。 ・延べ28の植樹イベントで、550本の苗木が植樹された。
	指標① 目標：33kg 実績：53kg 達成率：160% 指標② 目標：500本 実績：550本 達成率：110%
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は75kgの種子を生産し、46kgを配付した。 ・これら生産にかかる採種園の手入れや着花促進を実施し、また、コンテナ苗の試験育苗を実施した。 ・延べ38の植樹イベントで、583本の苗木が植樹された。
	指標① 目標：37kg 実績：75kg 達成率：202% 指標② 目標：500本 実績：583本 達成率：116%
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は69kgの種子を生産し、59kgを配付した。 ・これら生産にかかる採種園の手入れや着花促進を実施し、また、コンテナ苗の試験育苗を実施した。 ・延べ21の植樹イベントで、318本の苗木が植樹された。
	指標① 目標：37kg 実績：69kg 達成率：186% 指標② 目標：500本 実績：318本 達成率：64%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	・種子の生産は、県下の造林事業の根幹ともいえるため、産地の明らかな優良種苗を安定的に供給する必要性は高い。 ・花木苗の配付は、公的な場所やイベントにおいて配布するものであり、緑化意識の向上を図る趣旨から妥当
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	・森林資源を循環利用していくために、植栽は確実性が高い方法であり、そのために必要な種子を供給することの有効性は高い。 ・植樹後も地域の木として親しまれ続けることが予想されるので、事業は有効と考える。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	・採種園等の手入れ、着果促進などの管理作業を外部に委託しているため、民間の活力により事業の効率化を図っている

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・管理作業、苗木生産を実施する人の高齢化や生産技術の伝承 ・採種園の古くなった母樹の更新と、新たに開発された系統の母樹の導入 ・花粉の少ないスギ、ヒノキの系統の導入と早期の種子の供給

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・県下に安定的に種子を配布できる規模の施設は県しか有していないため、県民の財産として活用し、優良な種子の生産に努める。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	【〇〇課】